ワックスの使用法

「歩くスキー」のワックス　選び方と塗り方

「歩くスキー」はアルペンスキーと違って、歩く・走る・登る・滑るといったさまざまな要素が要求されます。前方へはより滑り、登る時は後方へスリップしないことが肝心なのです。この矛盾する２つを解決するためにあるのがワックスです。ワックスにはスキーを滑らせるためのワックス（グライダーワックス）と逆に滑りを止めるためのワックスの２種類があります。トップとテールのスライドゾーンにはグライダーワックス、センターのグリップゾーンには滑り止めワックスを塗り分けて使用します。

① 滑り止めワックス

滑り止めワックスがブレーキとなるのは、その粘性によって滑走時は平らになり、体重をかけてキックする時はワックスに雪の結晶がささるからです。滑り止め用のワックスは雪質・気温、また技術や体力などによって使い分けます。

② ワックスを塗る時の注意

- スキー滑走面の水分や汚れをよく落としてからワックスを塗る。
- ワックスは常に薄く塗るよう心がけ、スリップするようであれば同じワックスを塗りたすか、別のワックスを塗り重ねる。雪がつき過ぎる場合は全部はいで塗り替える。滑り止めワックスはスキーヤーの体重、脚力、技術によって違うが、一応の目安として気温が高ければ、それに適したワックスを短く、低ければ長く塗る。

現在「歩くスキー」用に市販されているワックスは、グリーン・ブルー・バイオレット・レッド・イエロー等がある。それぞれ気温や雪質に合わせて使用する。スライドゾーンと溝にはグライダーワックスかパラフィンを塗ること、滑り止めワックスは塗らないようにするのが原則です。

◎ワックスの使いはじめは、経験者によく聞き、使用ワックス、塗り方の指導を受けることが上達への近道ですが、スキー使用の終わるたびに自分の体験を記録し、研究することが大切です。また、ワックスは使用ごとにリムーバーなどでよく落としておくことが大切です。

③ ノーワックス

滑り止め部分以外に専用のグライダーワックスかパラフィンを薄く塗ります。